

平成28年度埼玉県公立高等学校入学者選抜に関するアンケート結果について

趣旨 平成24年度から1回の募集として実施した入学者選抜の変更を検証し、今後の入試制度の定着に生かす。

概要

- 調査対象及び回答数
 - ・市町村立中学校 412校 (100%)
 - ・公立高等学校 全日制142校、定時制24校 (100%)
 - ・市町村教育委員会 63市町村 (100%)

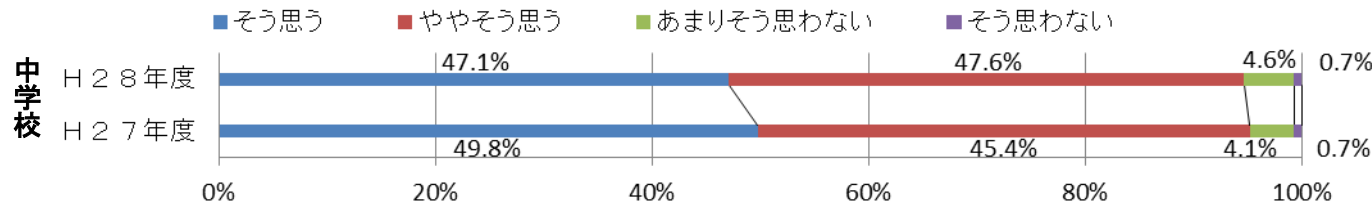
○ 調査時期及び調査方法
 時期：平成28年5月
 方法：中学校は7、高校は7の設問について4つの選択肢から選ぶ方式が中心
 市町村教育委員会は5つの観点に対しての自由記述方式

中学校・高校アンケート結果(抜粋)

以下の調査結果は、小数点以下第2位を四捨五入しているの
 で、合計が100%にならないことがあります。

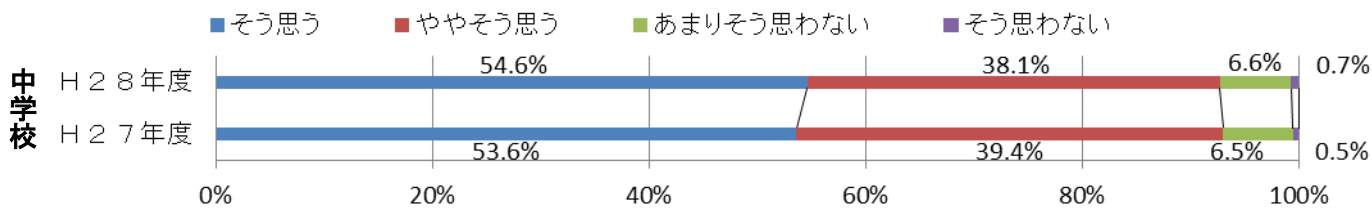
学力検査の問題について

出題の基本方針に則っており、中学校における普段の学習成果を発揮することができる。



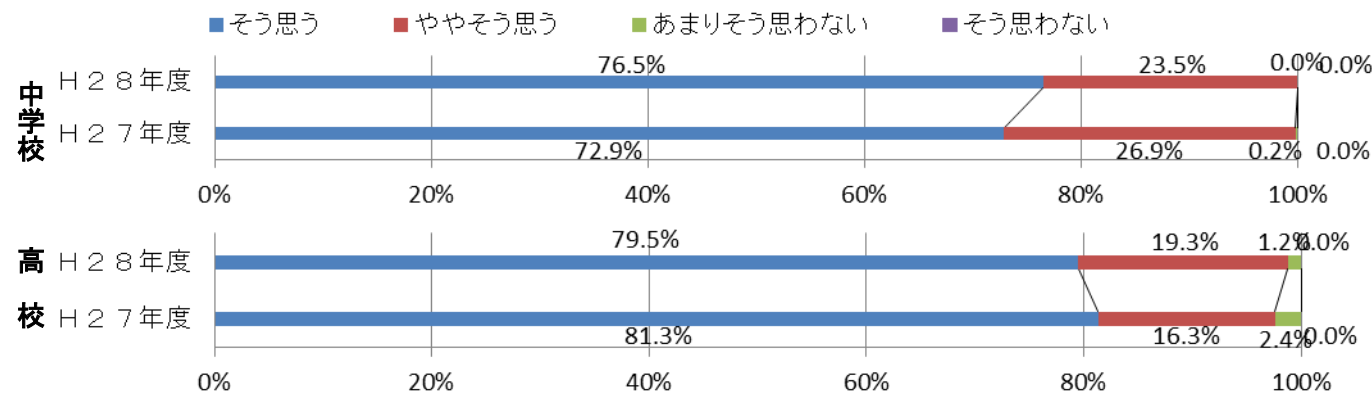
入試が1回になったことについて

2回実施時と比較して、受検生の負担は軽減される。



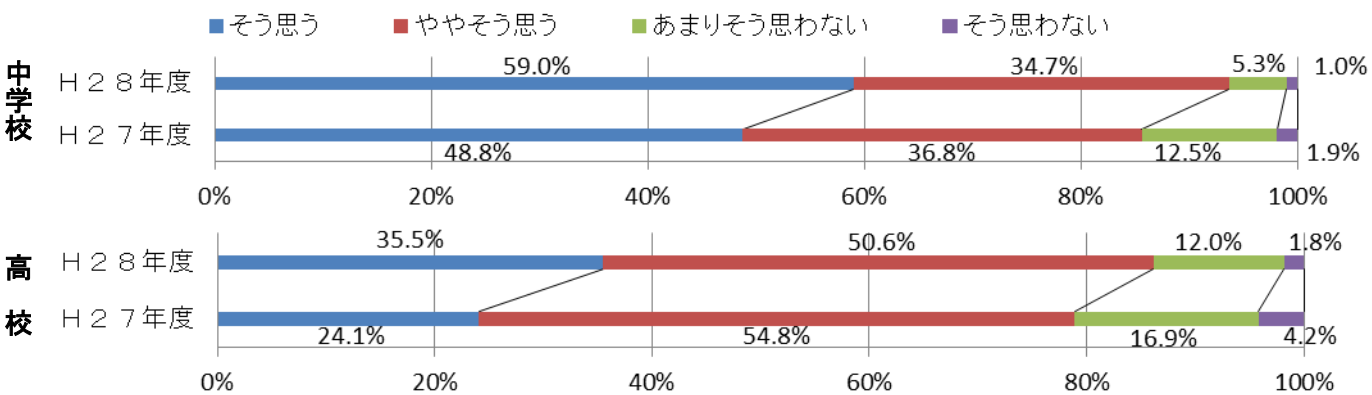
学力検査(原則として全員に5教科の学力検査を受検させたこと)について

中学生の確かな学力の育成を図ることができる。



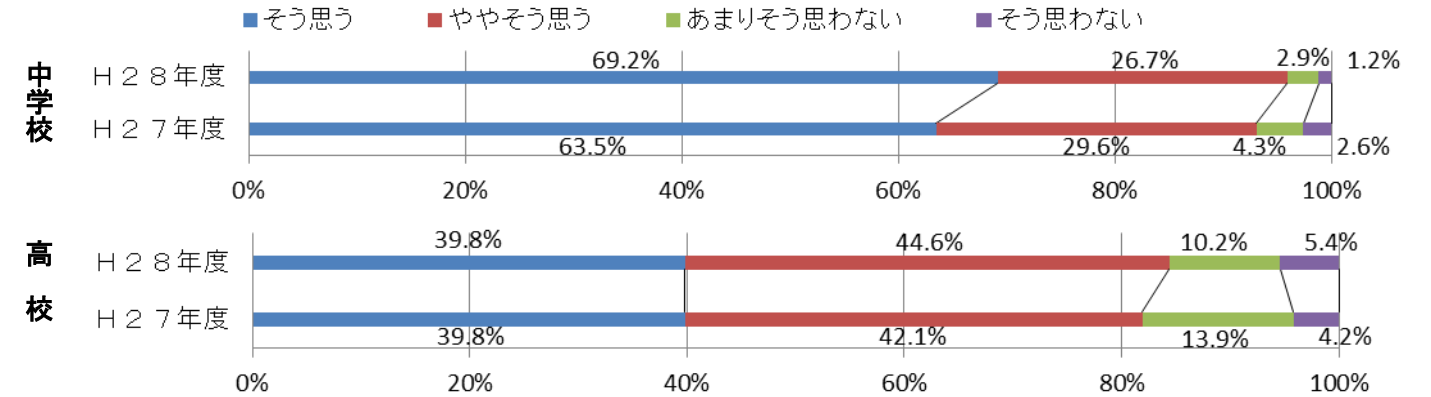
入試の開始時期を遅くしたことについて

中学3年生の3学期の学習に最後までしっかり取り組むことができる。



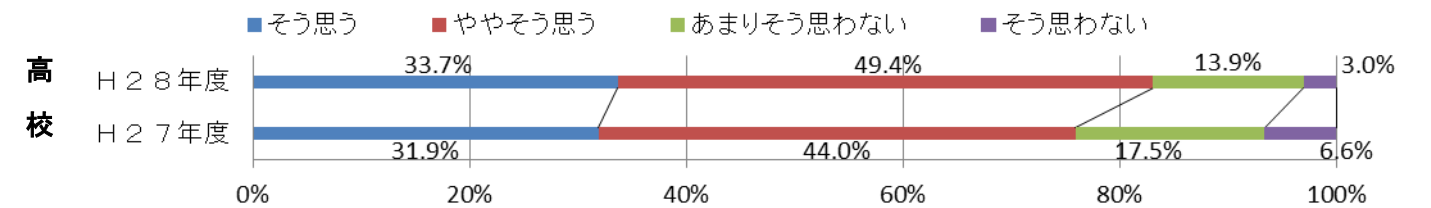
学力検査の得点が中学校に提供されることについて

データを蓄積することにより、中学校において主体的に進路指導をすることができる。



出願から発表までの日程(志願→志変→学検→面接等→採点→選抜→発表)について

かなり忙しい時期も含まれているが、総合的に考えると、日程全体としては適当である。



市町村教育委員会アンケート結果(抜粋)

原則、受検生全員が5教科の学力検査を受けること

- ・5教科の学力検査を実施することは、中学生が3年間、意欲的に学習に取り組む姿勢を身に付けさせるために大きな影響がある。
- ・受検生全員が5教科の学力検査を受けることで、埼玉の中学生の学力が保たれている。
- ・義務教育の目的を考えると、どの教科も偏りなく学習を進め、確かな学力を身に付けることは重要なことである。

入試の開始時期を大幅に遅らせたこと

- ・生徒が3月の入試直前まで授業に集中し、積極的に学習に取り組むことにつながっている。
- ・既習内容の範囲を5教科全部とし、定着までの時間を確保する意味で適切である。
- ・私立高校と公立高校の入試日程に間隔が生まれ、生徒指導上の課題がないわけではない。

学力検査の得点を中学校へ提供していること

- ・学力検査の得点と進学情報を中学校が蓄積することができ、正確な進路指導に活用できている。
- ・中学校への得点送付の方法や時期などについては、検討する必要がある。

平成29年度からの入試改善について

- ・思考力・判断力・表現力を問う問題に、生徒がじっくりと向き合うことができる。
- ・学校選択問題を取り入れることで、受検生一人一人の生徒の学力を適切に判断することが可能になると考える。

<まとめ>

- ・平成24年度の制度変更より、5度目の入学者選抜となり、各項目で「そう思う」・「ややそう思う」が高い水準で推移しており、入試制度の定着が図られていると考えられる。
- ・「入試の開始時期を遅くしたこと」については、「そう思う」・「ややそう思う」が多くを占めている。
- ・「学力検査の得点が中学校に提供されること」については、中学校・高等学校とも「そう思う」・「ややそう思う」の合計が増えているが、高等学校では、中学校と比較して、「あまりそう思わない」・「そうおもわない」が若干多くなっている。